

# 講読教授法一試案

## 精読と多読の組み合わせを通じて

丸 本 郁 子

Ikuko Marumoto; A Project to Encourage Independent Reading in English to Junior College Students

### 1. はじめに

最近英語教育の中で、再び「読み」の能力の見直しが行われて来ている。それは、一つには社会に出て現に英語を用いている人達が、実感として自分たちは話したり聞いたりする能力に比べて読むことは出来ると思っていたのに、それも実は実用の域に達していなかったと言う気づきを持ち始めた事にもよる。ポピュラーな英語上達法の雑誌や本の多くに、「速読法」であるとか、その他種々の読み方に関する物が出版されていることなどに、社会人の中に読み能力を付けたいと言う強い願望があることが読みとれる。<sup>1</sup>

この日本人の読解力の低さは、研究者による各種の調査結果にも、より明確かつ客観的に出ている。Farhady が800人の外国人留学生に対して実施した英語の各能力の比較では、日本人学生の読み能力は12ヶ国中最低であった。<sup>2</sup> また大谷は U C L A で実施した E S L P E (English as a Second Language Placement Examination) の結果の国別比較を通して、日本人大学卒業生の読解力は平均点からほど遠いと報告している。<sup>3</sup> 松村は「読めると言う日本人の自負は残念ながら空想にすぎない」とまで言っている。<sup>4</sup>

この現象は日本の大学レベルでの英語教育の主流が読解に置かれてきたことを考えれば、一見不思議に思えるが、同時にそれらの授業の重点が主として「内容を正確に理解する」精読のみに置かれていることを考え合わせると当然とも言える。<sup>5</sup> これらの授業に対する反省から講読の他の面をのばす努力がなされ、教材選択面での工夫、<sup>6</sup> 多読の試み、<sup>7</sup> 語い力の関わりの研究、<sup>8</sup> また速読法も機器を用いるものや<sup>9</sup> コンピュータ利用の可能性<sup>10</sup> などと種々の成果が

発表されてきている。

本校での試みも、語い力を付けることに努力を集中した時期、速読に工夫をこらした時期、また易しいものを多読させることに重点を置いた時期と変遷をたどるが、それらを総合して考えると読解力を付けるには上記のいずれかに片寄ることなく、統合したプログラムを組むと言う平凡な結論に落ち着く様に思える。<sup>11</sup> 更にそれが実際に役立つ力となる為には Gaskill<sup>12</sup> も言うように reading skill を育成すると同時に fluency を得させるために actual reading を十分にさせる必要がある。<sup>13</sup> つまり精読と多読の有機的な組み合わせが不可欠である。

この小論には本校「英語科の短期大学」において筆者が試みている精読と多読を組合わせた講読教授法を記す。重点は技術の獲得をふまえその上に学生が英文を読む楽しさ、自信、そして意欲を持って卒業していけるような形にしたいという点にある。筆者はそれを精読を主とする class work と組合わせて、自由読書という形で学生に自分で自由に選んだ本を一ヶ月に一冊を目標に読ませるという多読プロジェクトを行うことにより達せられるのではないかと考えている。その実践の記録と学生からのフィードバックの分析を載せる。

## Ⅱ. 読解の技能と到達目標

読解力を構成する要素・要因がすべて解明されている訳ではないが、基礎的な研究はかなり進められており、その技能に含まれるべき各要素も各種の分類がなされている。Harris は読解に必要な能力を次のように分けている。<sup>14</sup>

- 1 言語と記号
- 2 思想 (ideas)
  - a 書き手の意図と中心的な考えを発見すること
  - b 命題 (thesis) を支える下位の考えを理解すること
  - c 正しい結論と推論を引き出すこと
- 3 語調 (tone) とスタイル
  - a 主題と書き手の態度を理解すること
  - b 思想を伝えるための方法と文体上の工夫を発見すること

短大レベルにおいて学ぶべき技能は、この2と3の項目に当たるものである。その内容を Simons がリストアップしたより詳細な技能表現を用いて記述すれば次のようなものになろう。<sup>15</sup>

- ・事実と意見を区別する技能
- ・ paragraph 内の key word を探す技能
- ・ topic sentence を見付ける技能
- ・ 思考の単位 (thought unit) で読む技能
- ・ 結果を予測する技能
- ・ 新しい考えと古い考えを融合する技能
- ・ 一般化 (generalize) する技能

羽鳥はこれらに加えて次のように表現出来る能力を挙げている。<sup>16</sup>

- ・ 速く読める
- ・ 未知語の意味を文脈から見当がつけられる
- ・ 過去の経験と文中に述べられていることを結び付けられる

このような能力を段階に分け到達目標として表現することは、初歩のレベルにおいては可能であるが、上級になるにしたがって難しい。<sup>17</sup> 塩沢は高校卒業段階で期待すべき読む力を「3000語の語いと既習の文型・文法事項よりなる説明文を一分間60―80語の速さで黙読し、正確に内容を理解する力」としている。<sup>18</sup> その上に積む大学教養課程の目標は安藤の表現によればこうなる。<sup>19</sup>

- ・ 約6000語の単語と既習の文型による比較的易しいテキストを楽しみながら速読・多読できる
- ・ 速度は一分間200語で理解度は7割以上
- ・ それ以上難しいテキストは辞書を用いて精読ができる
- ・ 文学作品を鑑賞的態度で読んで、主題と思想を掴むことができる

本校においては、講読教師間の合意事項として授業の到達目標を講読Ⅰ（1年）、講読Ⅱ（2年）それぞれを次のように定め学生要覧に記載している。

#### 英文講読Ⅰ

英文に慣れることを目的とする。日本語に訳さずに読む習慣をつける。語い数を増す（5000語程度）。英英辞書を使えるようにする。読書スピードを増す（150 wpm）。説明的論文を正確に読めるようにする。―主題・構成・要旨の理解。主要な論点と従属的説明の区別。事実と意見の読み分けなど―。

#### 英文講読Ⅱ

1年で身に付けた技術をさらにみがく。読書スピードは200 wpm，語い

は7000語をめざす。異なったタイプの文章にふれ、それらを的確に理解すると同時に、批判的読みの力をつけ、自己の思想を深める。すぐれた内容や表現を持つ作品を味わうことにより、読書を楽しむ習慣を身につける。

この要覧に表されている到達目標は、大まかに言えば、1年時で基礎的な技能を身につけさせ、2年時においてはいわゆる technique に加えて、読む行為が自己の在り方に影響を与え、豊かにするものであるという経験をさせ、その経験を通し生涯にわたって読書を楽しむ習慣を身につけさせ、という「態度」に関わるものが記されている。この部分は生涯教育への橋渡しを行う役割を担う短期大学の最終学年のカリキュラムにおいては特に大切と思われる。

### Ⅲ. 授業形態

クラス編成は、一クラス32名程度で名簿順の割り当て制である。授業時間は一時間50分、週3時間、年間ほぼ28週程度である。この体制では、上記の目標を達するには時間が不足する。特に fluency を得させるための extensive reading を行う時間が取りにくい。そこでこの大量の英文にさらす(exposure)部分の作業を通常のクラス・ワークからは切りはなし、自由読書と呼ぶプロジェクトとして行う事にした。ただしこれがあくまで授業の一部であることを認識させるため、このプロジェクトの成果は評価を行う際に30%の重みを持たせる。そして通常のクラス・ワークは正確な読みを目指す intensive reading を中心にする。<sup>20</sup>

### Ⅳ. クラス・ワーク

プロジェクトの説明に入る前に、通常の授業の説明をしておく。

#### 講 読 I

授業全般の導入としてまず「読む」—英文を日本文を読むのと同様に訳すのではなく「読む」—とはどういうことかを理解させる。その方法は目を用いずに耳でもって英文を聞き理解するプロセスを例とし、次々と消えていく音声化された英文を理解するためには、冒頭から sense group ごとにその内容をイメージ化し、その集積としての文の意味を捉える習慣をつけねばならない事を説明する。これは同時通訳と同じ方法で永井の言う F I F O 方式 (first in first out) である。<sup>21</sup> その訓練を行うには大体2週間ほど要する。

同時に vocabulary building の必要性を理解させる。これも単語を日本語に

置き換えて理解するのでなく、contextの中で英語の sense で分かる訓練をする。具体的には、読んだ内容について英語で質問をし、英語で答えられるように訓練する。これは年間を通じて行う。またある単語の意味を英語で paraphrase 出来るようにする。そのために、最初の2週間で英英辞書の用い方を教える。これもその用い方を定着させるために、毎時間の予習は主として英英辞書を用いて行わせ、年間を通じて毎時間授業の開始前5分を割り、その日に扱う教材の中から5個の単語の dictation と paraphrase を quiz として行う。また各教材の中で用いられた重要単語は、種々の context の中で exercise を行い定着化を図ると共に、期末の試験においても単語の比重をかなり重くし、単語を増す努力がむくわれるようにする。

次のステップは、英文を読むとは、日本語に置き換えるのではなく、その書かれている内容を把握することだと理解させ、それを身につけさせる訓練である。訳さずに内容を正しく把握しているかどうかを確認するには summarize させる方法をとる。paragraph 単位で読みすすめ、1 paragraph を音読または黙読しおえると、目をテキストから離してその main idea をまとめて言わせる。これもほぼ年間を通じて行う。paragraph 単位の読みの次は article 単位の構成を掴ませることで、後期に入り構成のしっかりした文を用いアウトラインをとらせる。また後期には授業の初めに前回の授業の内容を英語で summarize する作業が加わる。このように一年の授業の重点は、高校までに行ってきた一文単位で英文を日本語に訳すという形の読みを離れ、paragraph 単位、article 単位で著者の伝えようとする内容を受け取る読みを切り替えることになる。著者の書いている内容の正確な理解の次のレベルの読みは、自己がそれをどう受けとめるかである。後期には1 article 読み終わるとその内容に対して discussion を行った。discussion をする習慣の無い日本人の学生対象に、内容のある discussion を成立させるためには工夫がいる。まず各自が読み終えた時点で感想文を書く。それをクラスで読みあうことをもとに話しあう形式をとった。

以上述べてきた summary, outline また感想文作成などの作業は、すべて著者の意図を正しく掴みかつ表現するために、学習した箇所を繰り返して読む必要がある。この繰り返して読むという作業が英文に慣れる一番大切な要素だ。そこで教師としては、この他にもあらゆる口実をもうけ、課題を与え、学生が教材の本文を繰り返し読まねばならない作業を与える。それは用いる教材によ

り登場人物の性格を考えさすものであったり、劇化して役をきめて読むことであったり、図面、地図、家計簿、また献立表の作成であったり、また試験問題を作成する作業であったりする。これらの工夫は、英語学習用に書かれているため内容的に大学生の知的要求に合わない教材を繰り返して読ますために、欠くことの出来ないものであろう。

速読の訓練それ自体にはそれほど時間は割かない。sense group ごとに読む訓練は速読の基礎になる。英問英答、summarize、感想文作成などの作業はその為に自然に skimming と scanning をさせることになる。前期の半ばに、速読法に関する記事を読ませる。この資料を四つに区切り、順に時間を計って読ませる。各自に最初のものから順に先に読み進むにつれて、読むスピードが上がることを実感させる。学生は著者の用いる文体や単語に慣れるにつれ、また内容の予測をつけることで自分の読む速度が上がることをこの作業を通して知る。その上で各自に自分自身の前期、後期の終りに到達したい reading speed の語数を登録させる。

翻訳は前後期の終りの2時間ほどを当てて行う。原文の tone や style を掴ませることが主目的である。同じ内容を異なった人物がそれぞれの立場で述べている複数の文を与え、訳文にその tone や style が反映するように工夫をさせる。お互いの訳を読み比べるのは楽しい作業である。

教材は主としてESL教材を用いる。多くの単語にふれさすため異なった主題を持つ解説的論文をえらぶ。ここ数年は *American Topics* (Prentice-Hall) を用いている。クリスマス前後には新約聖書 *Good News for Modern Man* (American Bible Society) を読みあげる。テキストを中心にしての調べ読みをさせるため、図書室にある reference books を用いる課題も与える。主として百科事典、それも中高生向きの *The World Book Encyclopedea* を使わせる。その他音楽辞典、地図、料理の本なども用いる。インディアン問題や公害問題を読んでいる時は、それ等に関する日本語の本を一冊ずつ読ませた。何語であれ現在学んでいる題材に関連した他の資料を調べることを通じて世界が広がる経験をさす事が大切だからである。

文学作品は学年末に短い小説を一つ読む。theme が学生の共感を得やすいもの、plot や characterization、style の複雑で無いものを選ぶ。Barbara Robinson の *The Best Christmas Pageant Ever* (Avon Camelot) であるとか英訳されたものであるが Saint-Exupery の *The Little Prince* などである。

物語の展開を楽しむため一回に読む分量は多くし2章ほどずつ進む。予習のガイドとして質問を与えておき、それに答える作業で流れやポイントをつかめるようにする。授業中は theme についての話し合いや、裏に隠された意味の読みとり、たくみな表現の鑑賞など、楽しむことに重点を置く。これは一年間 information の正確な読みとりに重点を置いていた授業の最後に与えるボーナスのようなもので、教師も学生もおおいに楽しむ。<sup>22</sup>

指導する際に留意する点は、でき得る限り、課題を与える時にその作業は何の為にやるかを説明することだ。大学生であり、英語の力をつけたいという motivation のある学生を対象としているのであるから、この目的の明確化は自覚的な学習を促進させるのに役立つ。

## 講 読 II

2年時には大人としての読みを要求する。1年時のように教授法によって興味をひくのではなく、読む作品自体の持つ魅力をバネとして読み進める。したがって授業展開は年間を通じほぼ同一のパターンをとる。

- ・最初に作品を読む時は、細切れにせず必ず最後まで通読し何について書いているかを考えさせる。
- ・その上で、一つの教材を3, 4回に分けて読む。
- ・各授業の始めは復習として前回に読んだ部分の oral summary をさす。
- ・予習は英々辞書を用い、授業出席前に単語は覚えてくる。毎時間授業開始前に単語5コの dictation と paraphrase の quiz をする。
- ・ paragraph 単位で読み進め、main idea を読みとらせる。
- ・分かりにくい表現、文型、内容に関する質問を受ける。
- ・内容についての discussion , 文化的説明。
- ・ oral reading , 戯曲の場合は役を定めて読む。
- ・関連事項の調べ読みを図書館の資料を用いて行う。oral report か written report の提出。
- ・一作品を読みあげる度に、その作品についての評論（英文でも日本語でも可）を書かせ、それをもとに討論をする。

語いのレベル、文体、論理の展開の面で、自己の知的生活を広げていける読解力をつけることに重点をおく。また読むことを学ぶだけでなく、読むことにより学ぶ面も重視する。つまり読む行為を通じ自分の世界を広げ、社会の問題や人間の在り方に目を開かせる。また受け身に著者の考えを正確に読み取るこ

とから一步進め、主体的にそれを自分はどう読むか、他人はどう読むかを確かめあい、自分の生きかたを考える読みを要求する。また読んだものを鵜呑みにしない批判力を身につける訓練をする。内容の妥当性、視点による解釈の差、構成・表現・用例の適切さなどを考えさす。

これらを行うために大切な要素は教材の選択である。次の点を考慮して選ぶ

- ・ original であること。語学学習者用に書き直していない作品を用いる。
- ・ 論説文、随筆などを主とし、雑誌記事程度のもの。
- ・ 主題は学生が現在および将来の生活で考える基礎となるもの。(差別、公害、資源保護、人口、教育、婦人、平和問題など)
- ・ 内容的に深いもの。
- ・ 必ずしも中立で良識的なもののみに限らず、bias のあるものや弱い作品も入れる。
- ・ 最後に文学作品を一つ読む。最近では戯曲 William Gibson の *Miracle Worker* を読んでいる。

取りあげた作品例。

John Corry “A Man Called Perry Horse” *Harper’s Magazine*, Dick Gregory “High School Days” *Nigger*, Ian Stevenson “People Aren’t Born Prejudiced” *Parents’ Magazine*, Morton Hunt “How Do You Choose a Mate” *Today’s Living*, Paul Ehrlich “Are There Too Many of Us” *McCall’s Magazine*, Paula Stern “The Womanly Image” *The Atlantic Monthly*, Shirley Chisholm “Breaking the Rule” *Unbought and Unbossed*, Joan Baez “Song for a Small Voyager” *McCall’s Magazine*. など。

## V. 自由読書プロジェクト

### 目的

読解力のもう一つの要素である fluency をつけ、同時に読む楽しさを味あわせ、自信と読み続けようという意欲を持たせることがこのプロジェクトの目的である。fluency の内容であるが、解釈力や類推力が増すだけでなく、読みのスピードや語いも増すことを期待している。

### 方法

ルールは一ヶ月に一冊、自分で自由に選んだ本を読み、そのレポートを提出することである。その成果は期末の評価に30%分として加算される。



選ぶ本の範囲は1年生は全く制限なしで、simplified edition や abridged edition でも、絵本であってもかまわないことにした。ただし original の長い作品を時間をかけて読んだ場合は、前期には60ページで一冊、後期には90ページで一冊分に数えることにし、original を読む努力を励ますようにした。2年生に対しては、前期は simplified edition を選んでも良いが、後期には全て original を読むことにした。ジャンルは自由であったが大部分は小説、それも児童文学を選んでいく。

提出記録はB4用紙に書式を定め、書名、著者名、出版社、出版年、ページ数を記入する欄、日記形式に読んだ時間とページを記録する欄、要旨およびコメントを書く欄を設けた。この summary and comment は用紙の半分のスペースに英文で書く。summary を書くのは、ただ読みとぼすのではなく、内容を読みとる責任を持たせるためである。comment はきちんとした書評を書かせるのが目的ではない。印象に残ったことを自由に書かせ、どの程度の理解をしているかを教師が把握し指導の手引きとする為である。この部分は丁寧に読み、英語の誤りを訂正し、教師からのコメントを必ずつけて返した。学生のレベルや興味に合わせて次に何を読んだら良いかの指導もこの記録用紙を用いて行った。読み方は各自が自分のペースをみつける事を基本としたが、次の点は注意した。必ずしも速読を目的としているのではないが、著者の用語や文体に慣れると速く読めること。分からない単語は context で見当がつくことが多いこと。辞書は用いたければ用いてもよいことなどである。辞書の使用については、作品によってはいくつかの鍵になる言葉は正確に知る必要があるし、学生にとって正確な語を増すことは大切だからだ。ただし読むのに忙しくなれば、必然的に引かずすますことになるし、それでも内容は攷めることがわかるであろうとの仮説があった。

英語の本を自主的に読む習慣がない大部分の学生に読む弾みをつけるために最初の本を読む時は、授業時間を用い、全員が各自選んだ本を持って来てクラスで黙読することにした。1, 2時間これに当てると、教師にも各学生の読み方のパターンが分かる。学生も分かりにくい表現はその都度質問が出来る。また最初の本を読みあげた時点で、各自5分ほどづつ book talk をさせ、お互いになにをどのように読んでいるか紹介させた。意欲的に大作に取り組んでいる者や、同じ作品を読んでいる者同志も異なった解釈が良い刺激を与えあう。教師が紹介しても読まないような作品も、お互い同志の推薦だと手にとる。この

book talk はその後、夏休み後や試験休み後にも行った。

準備は図書館に棚を設け、paper back で洋販、Longman, Oxford University Press, Collins English Library などの simplified edition や、Puffin, Avon, Dell, また Penguin, 講談社などのものから話題になっているものや、興味をひきそうなもの、また知られていないがぜひ読ませたいものなどを複本をそろえて置いた。その他にも図書館では、基本方針としてそれぞれのジャンルで英語の作品をなるべく多く集め、日本語の本と並べて配列してあることを説明する。

評価法は学生に次のように説明した。規定の冊数を読み記録を提出した者はそれだけで60%は点がもらえる。それ以上は次に挙げる点のどれかに該当すれば、それは評価の対象になる。数多く読んだ者、大作をじっくりと読んだ者、深い読みが出来た者、個性的な読みをした者、大いに楽しんだ者、毎日規則的に読んだ者、怠けていたが間に合わせるため大スピードで読みとばせた者、新しく面白い作品を発見した者。

#### 読みあげた量

読 み 方	1 年 生	2 年 生
読みあげた平均冊数	8	7
学習版の平均冊数	4	2.5
オリジナル版平均冊数	4	4.5
最高冊数	16	8
最低冊数	3	3
読みあげた平均ページ数	988	1145
最高ページ数	1762	1914
1500ページ以上的人数	4	5
最低ページ数	90	238

提出された記録をまとめると学生の読みあげた数は表1のようになる。1年生の平均冊数は8、最高は16であり、2年生は平均が7、最高が8冊である。

これに加えて、クラス・ワークに関連して日本語のものを読むように指定した月もあるので、分量的には個人差はあるが概ね目標を達しているといえる。

### 読みあげた作品

simplified edition から読み始める者が多いが、読み進むうちにおおかたの者が、それでは単純で面白くないと original にと移行している。その大部分は小説で、しかも児童文学である。これはクラスで fiction を扱わないのでその面を補う意図もあるが、それよりも学生が興味を持って始めから終わりまで読み通せるという意味で小説がふさわしく、また比較的 plot や style が簡単という意味で児童文学がふさわしい。同じ児童文学を選んではいらるが1年生と2年生の読書力にはかなりの違いがあり1年生は主として幼い子供向けのものを選び、2年生はそれに加えてティーンエイジャー向きのものを選んでい

人気があった作品: *The World of Pooh* (A.A.Milne), *The Story of Doctor Dolittle* (H.Lofting), *Mary Poppins* (P.L.Travers), *Pippi Longstocking* (A.Lindgren), *The Wizard of Oz* (F.Baum), *Lottie and Lisa* (Erich Kastnar), *The Lion, the Witch and the Wardrobe* (C.S.Lewis), *Heidi* (J.Spyri), *Charlotte's Web* (E.B.White), *A Bear Called Paddington* (M.Bond), *The Borrowers* (M.Norton) などである。

ある作家が面白いとなるとその作品を読み続ける例も多い。L.I.Wilder のシリーズ, Pippi を読むと *Pippi Goes South Sea* や *Pippi Goes Abroad* を読む。Joan Aiken を発見したものは *Black Hearts in Battersea*, *Night Birds on Nuntuchet*, *The Wolves of Willoughby Chase* と読む。Roald Dahl も人気があり *Danny the Champion of the World* や *Charlie and Chocolate Factory* などその続きもよく読まれた。

Bantam Books の出している Choose Your Own Adventure のシリーズ, *Time Machine*, *The Phantom Submarine*, *Secret of the Pyramid* など自分で物語を選びながら読むものもそれなりの人気がある。

1年生で挑戦している者もあるが、主として2年生が読んでい作品をいくつか拾うと L.M.Montgomery の Anne シリーズ, L.M. Alcott の *Little Women*, *Tom's Midnight Garden* ( Philippa Pearce ), *The Catcher in the Rye* (J.D. Salinger), *Goodbye, Mr. Chips* (J.Hilton), M.Ende や Mark Twain の作品などである。

同様に2年生ではポピュラーな大人向きのものを読みだしている。Erich

Segal, Agatha Christie, Carson McCallers, Graham Greene, Charlotte Bronte, Hemingway などの作品である。映画化されたものも目立った。 *The Graduate*, *Chariot of Fire*, *Rocky*, *Star Wars*, *Back to the Future* などである。

講談社の日本文学の翻訳は 1, 2 年生共通によく読まれている。 *Totto-Chan* (黒柳徹子), *Little Momo-chan*, *Two Little Girls Called Iida* (松谷みよ子), *There Was a Knock*, *Three Sisters Investigate* (赤川次郎), *Green Requiem* (新井素子), *The Sea and Poison* (遠藤周作), また小説以外の *The Anatomy of Dependence* (土居健郎), *The Cinderella Complex* (Colette Dowling) などもある。以上の title でも分かるように、学生の選択は良く知られている作品に成らざるを得ない。しかし教師のほうで勧めてみるとかなり大きな作品でも興味を持って読みこなす。次はその内のいくつかである。Cynthia Voigt の作品群 *Homecoming*, *Dacey's Song*, *A Solitary Blue*, Mildred Taylor の *Roll of Thunder Hear My Cry*, John Rowe Townsend の *The Xanadu Manuscript*, また Sonia Levitin の *Smile Like a Plastic Daisy* などである。

#### 時間とページの記録

読みの記録は次のような形で書く。表 2 と表 3 は 1 年生のある平均的学生の最初と最後の本の記録である。

表 2 H. Lofting, *The Story of Doctor Dolittle*, Oxford Univ. Press, 58p.

Date	Time	Pages
April 24	12:27pm -- 12:42pm	1 -- 6
	2:56pm -- 3:02pm	6 -- 7
May 5	6:25pm -- 6:32pm	7 -- 9
May 6	8:24am -- 8:45am	10 -- 18
	12:26pm -- 1:00pm	18 -- 30
	4:15pm -- 4:43pm	30 -- 42
	5:02pm -- 5:35pm	43 -- 58

表3 R. E. Peck, *Something for Joey*, Bantam Books, 184p.

Date	Time	Pages
January 27	8:15pm -- 8:38pm	3 -- 16
	11:22pm -- 11:38pm	16 -- 25
January 28	10:34pm -- 11:05pm	25 -- 45
January 30	10:58am -- 11:47am	49 -- 80
	11:45pm -- 11:57pm	81 -- 86
February 1	11:30pm -- 11:53pm	87 -- 105
February 5	12:07pm -- 12:23pm	105 -- 120
	11:50pm -- 12:43am	121 -- 156
February 6	10:35pm -- 10:58pm	156 -- 169
February 7	11:45pm -- 12:08am	170 -- 184

4月には abridged edition をたどたどしく読んでいたのが、学年末には original を読みすすめている。この学生は最後に読んだ作品への comment の中で “I tried to read this story in June, but I failed because it was too difficult for me. This time I could finish reading at last.” と書いている。

この記録は教師には大層参考になる。1年生が *Heidi* (Penguin Book, 239p.) や *Little Women* (Kenkyusha, 385p.) を読むのにかけている時間はかなりのものである。しかし表4-表6で見ると2年生だと後期になれば児童文学であれば年長者向けの作品でもごく普通の学生が楽に読みこなしている。

表4 R. Dahl, *Danny the Champion of the World*, Puffin Books, 175p.

Date	Time	Pages
September 2	10:00pm -- 11:00pm	7 -- 16
September 3	10:00pm -- 12:00pm	16 -- 33
September 6	1:20pm -- 4:40pm	34 -- 74
September 7	1:00pm -- 6:30pm	75 -- 175

表5 T. Springstubb, *The Moon on a String*, An Atlantic Monthly Press Book, 201p.

Date	Time	Pages
February 5	1:45pm -- 2:15pm	3 -- 15
	4:10pm -- 4:55pm	15 -- 36
February 6	3:45pm -- 4:55pm	37 -- 66
	9:25pm -- 10:25pm	67 -- 96
	11:35pm -- 12:20am	97 -- 119
February 7	12:30pm -- 13:10pm	120 -- 138
February 8	11:30am -- 12:50pm	139 -- 177
	2:45pm -- 3:25pm	178 -- 201

表6 L. M. Montgomery, *Anne of Green Gables*, Penguin Books, 253p

Date	Time	Pages
December 20	9:00pm -- 10:00pm	1 -- 20
	10:15pm -- 11:45pm	20 -- 49
	19:00pm -- 20:00pm	50 -- 73
December 21	8:00am -- 9:30am	74 -- 102
December 22	20:00pm -- 20:50pm	103 -- 140
December 23	10:00pm -- 11:00pm	141 -- 197
	13:00pm -- 14:00pm	197 -- 226
December 25	10:00pm -- 11:15pm	227 -- 253

この記録では読書スピードは分からない。途中で辞書を引くこともあるであろうし、繰り返して読む場合もあるだろう。しかし総体としてどれほどの時間をかけ、どれほどのペースで読んでいるかは分かる。一冊の本で見ると読み始めに比べて終わりの方でスピードが増しているのが目立つ者もあるが、それほど顕著でない者も多い。年間を通じて見ると、本の難易度が異なるので簡単に比較出来ないがそれぞれ進歩が見られる。特に難しい作品を読みあげた後はスピードが増す。読み方は個人差があり、毎日規則的に15-30分当てて読む者もあれば、続けて数時間読み一日で読みあげてしまう者もいる。

#### 感想文

comment を読むと作品の受けとめ方には更に個人差があることが分かる。

*Little Women* をある者は “. . . I was impressed by kindness and thoughtfulness of the characters. Especially, I think Mrs. March was an ideal person. . . . After reading *Little Women* I know that Alcott is a great author and that it is natural that this story is loved all over the world.” と言い、他の者は “. . . the people in this story are too idealistic and faultless, so I could tell what would happen next before reading it. In that sense this book is not interesting.” と言う。 *Jonathan Livingston Seagull* も同様に “ I think Jonathan is very charming. How lively he is! He enjoys his life and makes efforts for his aim. I learned the spirit of never-give-up from this book.” と言い、他の者は “In the beginning, Jonathan was like a pure-hearted little boy, lively, funny and lovely. But at the end he seemed to be like Christ. I felt unnatural. Certainly Jonathan was a hard worker, had aspiration, and had known the meaning of love and flight. They are important things, but I think eating is important, too. This story leaves me an unpleasant feeling.” と言う。単純に楽しんで読む者もあれば、かなり批判的に読める者もいる。

この comment には学生達が苦勞しながらしかも真面目に取り組んでいるようすが良く出ている。次は *Little Prince* を読んだ1年生のものである。“I read the story four times. First in Japanese when I was nine. Secondly from November to January by myself in English. Third time in the class, and the fourth time by myself again. First and second times I could not understand the story and I was bored. At the third time I began to realize what the story really meant a little. And at the fourth time I read very carefully and I understood a little more. When I finished reading the fourth time I felt sad, because I don't know how to see sheep through the walls of boxes.”

*Huckleberry Finn* を始めに学習版で読み、次に original に挑戦したものは “It was very, very hard to read it. There are many words I didn't know, many black English and slangs. . . . But I enjoyed this work more than the simplified one.” と書いている。方言は当然困難を与えてはいるが学生はそれなりに生きた表現を楽しんでいるようである。*Secret Garden* でも “I struggled with this book at first, however, as I read on and got used to it,

it became interesting. I want to hear the dialect.”と書いているし、*Roll of Thunder Hear My Cry*でもそのblack Englishを“I think their spoken language is very lively.”と表現している。

一番多いcommentは主人公の生き方を自分の在り方と重ね合わせての感想である。“The protagonists of the books I had read were mainly younger than me, in other words, they were children. However, this heroine is about the same age, she is a woman who has just left school and begins to stand up on her own feet in the world. So the situation is similar to mine. In many points I could not help feeling as if Deirdre were me. I could understand her mind. She wanted to leave home and live by herself. My family are always around me, and I won't leave home as Deirdre did, I may not notice the importance of my family. However. . .”(*The Moon on a String*). 彼女等は家族関係, 教育問題, 恋愛, 社会の変化等について本から触発され思いめぐらす。“I was angry with these parents. I think the one who is really lonely must be Jeff's mother, Melody. She is always on the move for the poor people, but it seems that she does not know true love.”(*A Solitary Blue*).

また素朴に本の世界の楽しさにひたり自分もその場にいるように感ずる読みも多い。“I could read this book fast. It was very interesting to find out the real murderer. I want to try another detective story.”また“I want to live on high mountains like Heidi, taking care of goats, making cheese, etc. I want to live just to live instead of living to study. I wish I had been born in Switzerland in 16th century.”

このコメント部分は教師と学生との交流の場である。学生の感想に教師は自分の感想を一読者として書き加え, また次に読んだらよいものを推薦する。学生はそれが詰まらない時には文句を言い, 楽しんだ時には感謝の言葉を書く。教師が知らない作品を学生から知らされて読むこともある。その意味でこのプロジェクトは教師にとって負担は多いが, たいそう楽しみなものであった。

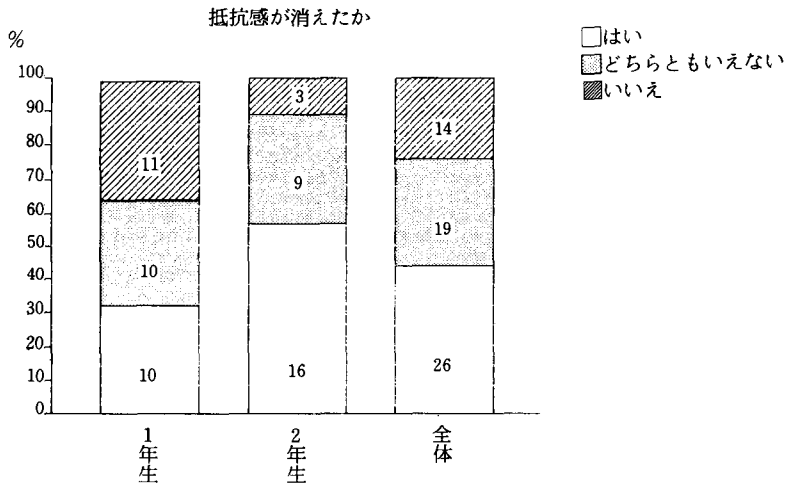
## VI. 学生による評価

学生達自身はこのプロジェクトをどう感じているかを知るために最後の時間に無記名のアンケート調査を行った。その問いと解答結果を百分比のグラフに

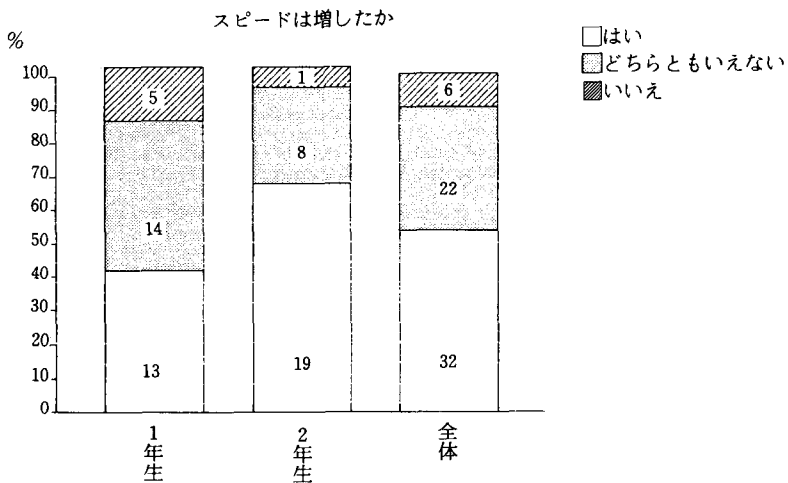


して次に記す。解答者数は、講読Ⅰ（31名）、講読Ⅱ（28名）である。  
 グラフ上の数は、解答者数を示す。

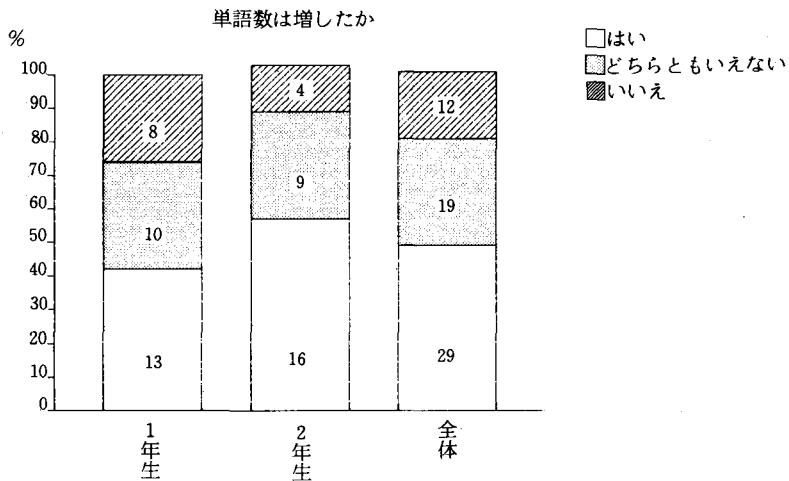
A. 英文を読む事に抵抗を感じなくなりましたか。



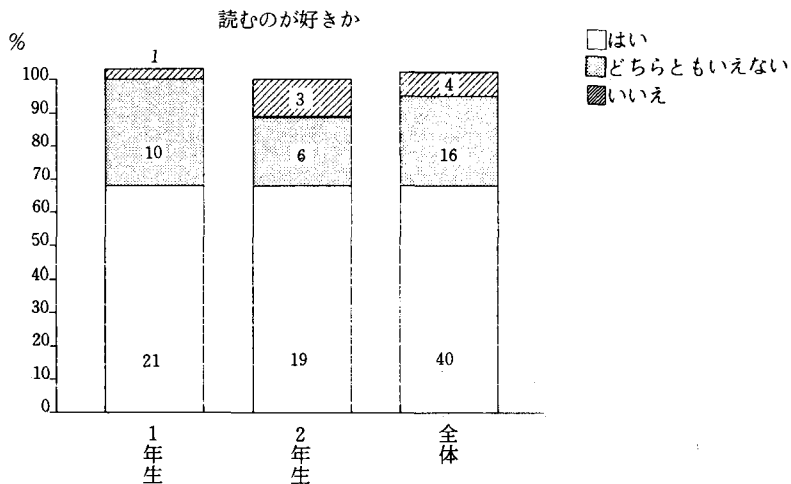
B. 読書スピードが増しましたか。



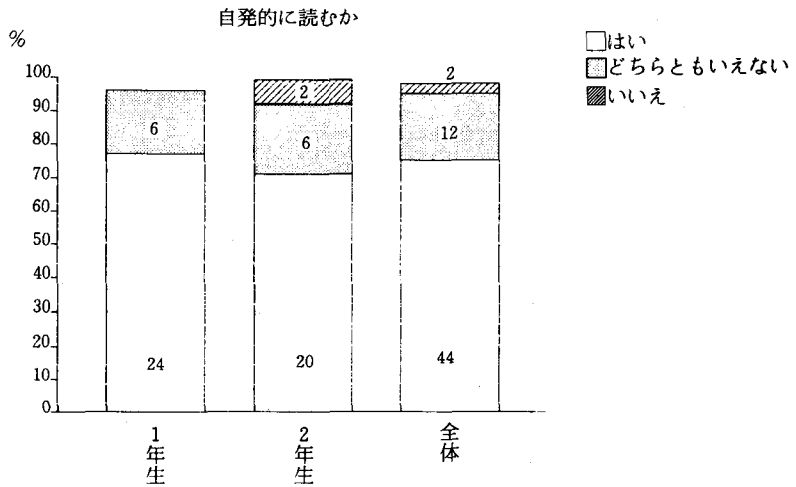
C. 単語数が増しましたか。



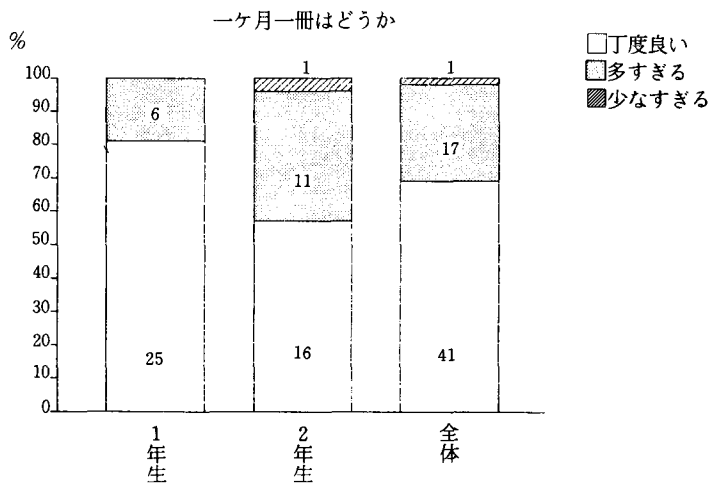
D. 英語の物語を読むのが好きになりましたか。



E. これからも授業で強制されなくとも自分から読み続けようと思いますか。

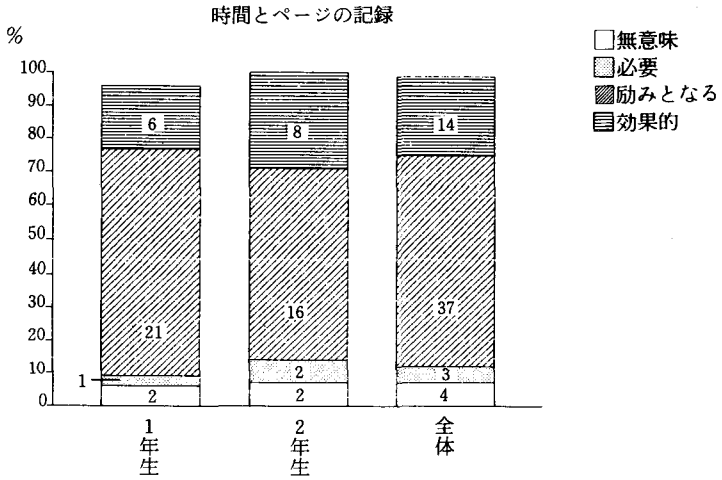


F. 一ヶ月に一冊読むことをどう思いますか。



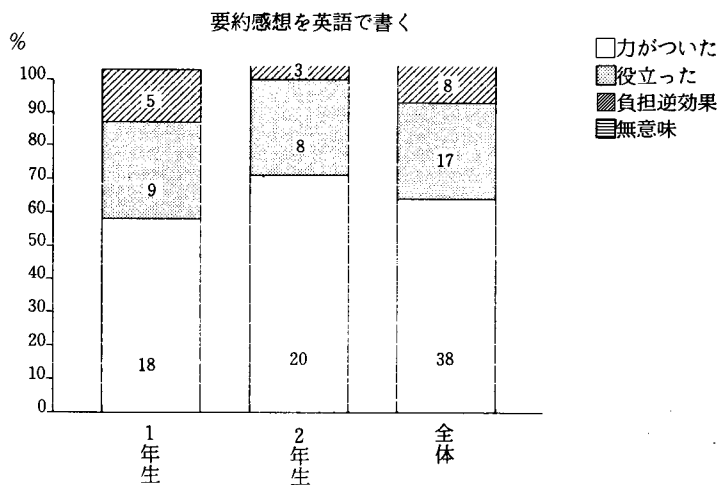
G. 時間とページの記録をすることをどう思いますか。

1. 効果的である。
2. 励みになった。
3. 面倒だが必要と思う。
4. 無意味、止めたほうがいい。

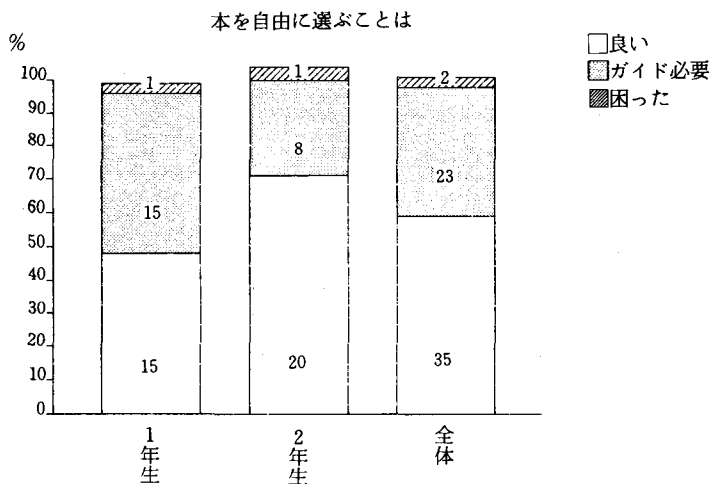


H. コメントとサマリーを英語で書くことをどう思いますか。

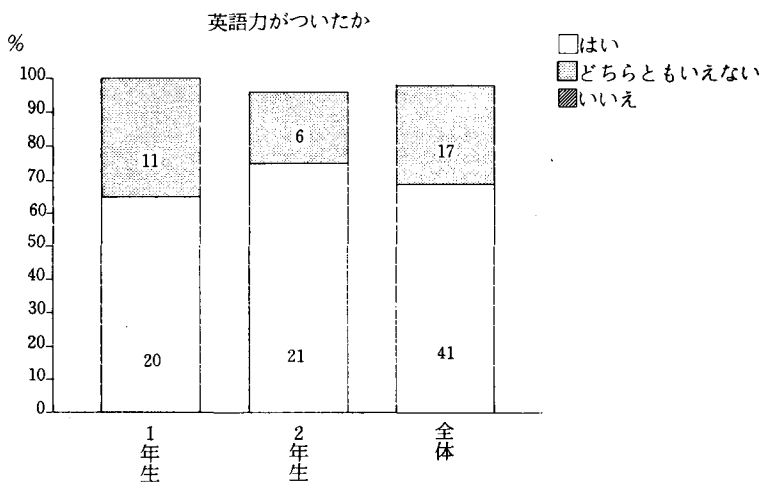
1. まとめたり考える力がついた。
2. 書くために真面目に読むから良い。
3. 負担になるから読むのもいやになり逆効果だ。
4. 無意味だ。



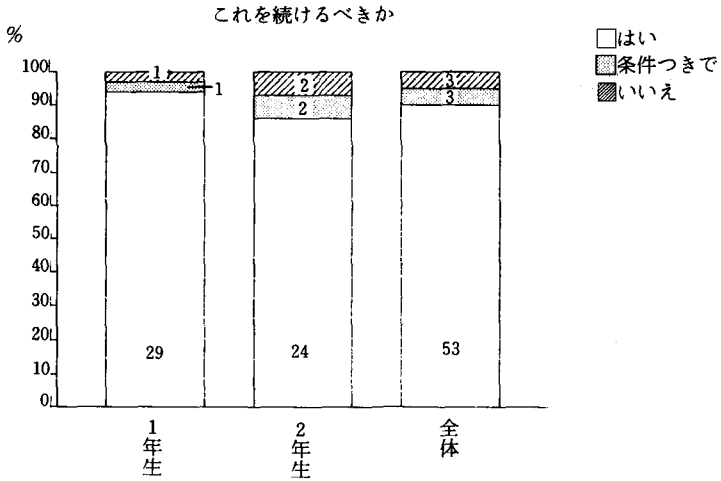
I. 自由に本を選ぶことをどう思いますか。



J. 英語の力をつけるのに役立ちましたか。

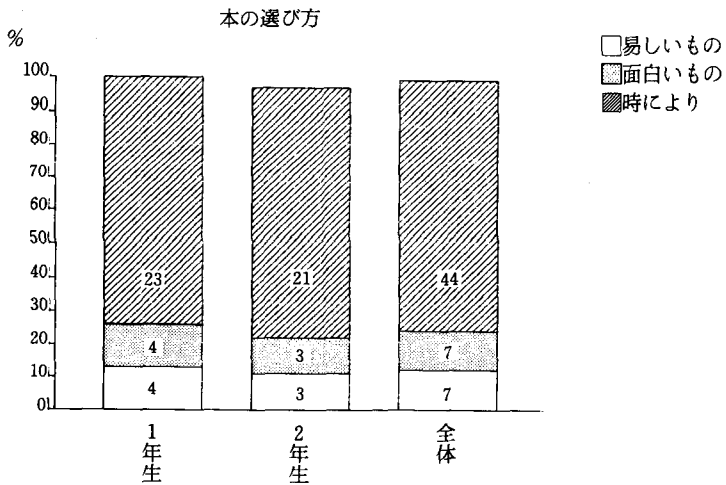


K. このプロジェクトを続行したら良いと思いますか。



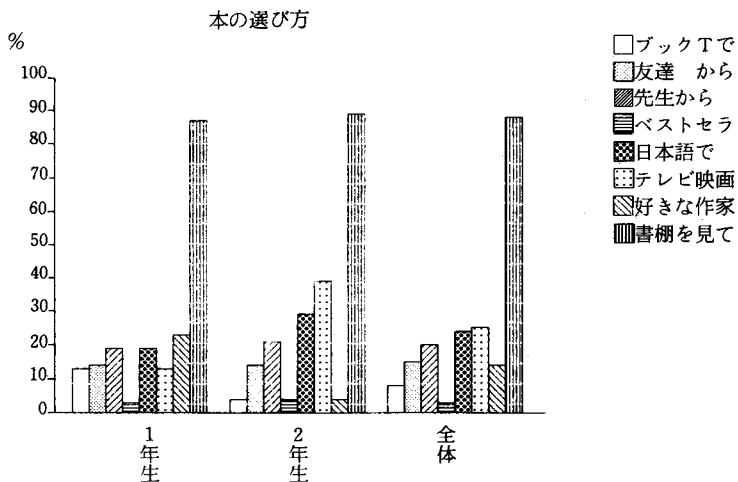
L. 本はどのように選びましたか。

1. 短く易しそうなものを 2. 面白そうなものを 3. 時により1 or 2



M. 本はどのようにして選びましたか。

1. book talkを聞き面白そうだから。
2. 友達から勧められて。
3. 先生から勧められて。
4. ベストセラーだから。
5. 日本語で読んでいたから。
6. テレビ・映画で放映されていたから。
7. 好きな作家の作品だから。
8. 書棚で見て面白そうだから。





具体的な効果 —抵抗感(A)、読書スピード(B)、単語数(C)、全体的な英語力(J) — についての自覚はほぼ予測していたとおりであった。英文を読むことに対する抵抗感は此のレベルにおいては当然まだ存在するわけで、1年生で3割、2年生で6割の者が「感じない」に肯定的な解答をしていることはかなり自信をつけることに役立ったと言える。スピードと単語数についてはこれらを増すことが主目的ではないが、付随してプラス効果があるであろうとの予測をしていた。スピードが増したと自覚している者は1年生で4割、2年生では7割あり、単語については1年生で4割、2年生で6割の者が増したと自覚している。そして全体の英語力を付ける事には7割の者が役立ったと評価している。効果の自覚については、石本等の調査の結果報告を見ても、客観的な効果に対してよりも学生の自覚は控えめなように思える。<sup>23</sup>

実施方法については、時間とページの記録(G)が不評であった。大層繁雑であることは確かだ。しかし教師にとって参考になるし学生も「面倒だが必要」と思う者も多い。コメントとサマリーを英語で記録すること(H)はかなり負担となるので反対する者が多いのではないかと考えていたが案に相違して「力がついた」「役立った」との評価が9割を越した。分量(F)であるが1年生は8割が適当と思っているが、後期には就職試験を受ける2年生にとって一ヶ月でオリジナル作品一冊をクラス・ワークに加えて読むのはきついと思う者もいた。作品の自由選択に関して(I)は2年生は7割が良しとしているが、1年生はもう少し積極的なガイドを必要としている。本の選び方(L)については書棚に並んでいるなかから選ぶ数の多さに驚かされた。過去に何回か推薦図書リストを作成して渡したことがあったのだが、あまり参考にされていなかった。やはりふさわしいタイトルを選び、図書館の書棚にさりげなく並べておくことが一番効果的なのであろうか。

このプロジェクトの主目的である英語で物語をよむことを好きになったかどうか(D)には7割が「はい」と答え、これからも強制されなくとも自分から読み続けるか(E)には7.5割が肯定している。「このプロジェクトを続行したら良いと思いますか」(K)には9割が賛成している。

## Ⅶ. まとめ

此のプロジェクトは「自由」読書と名付けてはいるが決して自由ではない。

一ヶ月に一冊は「強制的」に読まされるのであり、要約と感想も「強制的」に書かせられるのである。しかしこの強制という形の指導がない場合の予測は次の例と代わらないものとなるのではなかろうか。独協大学での『外国語教育に関する学生の実態調査報告』によると、1年間に教科書以外に読む英語で書かれた本の数は英語科の学生であっても平均2.1冊であった。<sup>24</sup> 教師が指導上必要と考えて強制する行為の弊害は、強制されたが為に、学生が興味と意欲を失う事であろう。幸いなことに上記のアンケート結果に見られるごとく、本校の学生においてはクラス・ワークと組み合わせ一ヶ月に一冊読むという読書指導は、それを通して英文で読む楽しさ、自信、そして意欲を持たせる結果に結びついたようである。教師としての気付きは、学生に対する信頼と、本の持つ力に対する信頼である。読む本を自由に選ばせてみると、最初は *simplified edition* を手にするが、すぐに不満足になり自分から *original edition* へと移行していく。読みの基礎能力を付けておけば、自力でかなりの大作も読みあげられる。自分が読めるという自信がつくと、次々と読み続けていく。同様に好きな作家や作品に出会うと次々と読んでいく。

この自分の本と言える作品との出会いがむつかしく、しかし起こりうればすばらしいことである。その為に一斉授業ではなく「自由に」模索するチャンスが在ることがこのプロジェクトの最大のメリットであろう。内容だけでなく、難易度についても自分の力に合った作品を自分のペースで読み進められる長所がある。

このプロジェクトで達せられないものは深い読みである。複雑な作品になると自力で読めないものは当然出てくる。*Alicice in Wonderland* を読んで面白くないと言っていた学生が、文学演習の授業で教師と共に読み、初めて面白さが分かったと発言している。対策としては共通に読めていないものが出てきたときにはその作品をクラスで取り上げることも考えられる。1年生の授業の最後に全体で読んだ *Little Prince* はその例である。

本学の学生が「自由」読書でとりあげた作品のジャンルは主として児童文学であったが、これも学生の興味や教師の指導、選書ガイダンスによって時事問題、社会科学、また自然科学分野へと広げて行ける可能性がある。この試みは短期大学のレベルにおいて、精読と組み合わせ多読を行わせる指導により、読書本来の姿 ―自分の興味・関心・目的に合わせて自分で読み物を選び読むこと― への一歩が進められることを証明したと思える。更に工夫を重ね、読

む楽しさを知った意欲的な読者を育てる授業を創りだしていきたい。

## 注

1. アルクで出されている *The English Journal* の別冊など。『20日間でリーディング力を倍にする本』(1983), 『ペーパーバックの本』(1984), 『英語の速読術85: すらすら英語リーディング入門』(1985) などであるが, 『英語の速読術』のP. 64 には速読関係参考図書リストがあり, 日本語のもの31冊, 英語のもの37冊があげられている。
2. Hossein Farhady, "Measures of Language Proficiency from the Learner's Perspective," *TESOL Quarterly*, XVI, 1(March,1982)43-59.
3. 大谷泰照“日本人と国際理解-外国語の教育を考えるために”, 羽取博愛, 伊村元道 ed. 『外国語教育の理論と構造』(大修館, 1979) 18-32.
4. 松村幹男 *et al.* 『英語のリーディング』(大修館, 1984) 24.
5. 大学一般英語教育実態調査研究会『大学英語教育に関する実態と将来像の総合的研究(1)』(1983) の報告によれば, 82.4%の英語教員が読解用テキストを用いている。
6. 児玉徳美“大学における英語教育読解力の実態-”『立命館大学外国語科連絡協議会外国文学研究』LX II (1984) 99-110.
7. 酒井邦秀“英語の多読授業: 実施例に見る問題点と可能性”『電機通信大学学報(人文社会編)』XXX III, 2 (February,1983) 395-407.
8. 佐藤史郎“実験に基づく読書力向上への一考察”『女子聖学院英文会誌』X (1978) 22-40. において読書力の決め手は必ずしも語いの豊富さのみではなく, 必要なのは基本的な文法・構文・音韻の知識, そしてコンテキストがある中での語いの拡充だとしている。
9. Kayoko Yamasawa and Takae Takamizu, "Rapid Reading Training: A Report on Special Training Devices for Reading English," 『共立女子大学紀要』X V (1972) 25-40.
10. 石本管生, 寺田祐二, “マイクロコンピューターを用いた訓練によるリーディングスピードの増強の効果と実用のためのトレーナの開発”『教育研究: 国際基督教大学学報1-A』XXVI (1984) 153-180.
11. 単語の知識のみと読解力にはあまり相関が高くない結果は次の論文に示されている。Patricia Johnson "Effects on Reading Comprehension of Building Background Knowledge" ,*TESOL Quarterly*, XVI (December, 1982) 503-515. Thomas P. Gorman, "Teaching Reading at the Advanced Level," Marianne Celce-Murcia, Lois McIntosh ed. *Teachinh English As a Second or Foreign Language*, (Rowley,

- Mass., Newbury House, 1979) 154-162. 読書スピードについても、1960年代後半から80年代にかけて研究がかなりおこなわれたが、速く読める者は理解力が優れていると言う一般の結論と、訓練によりスピードは増えるということを証明している程度で、それが読書力をつけることにどのような意味があるかは、はっきりしない。Eileen K. Blau, "The Effect of Syntax on Readability for ESL Students in Puerto Rico," *TESOL Quarterly*, XVI (December, 1982) 517-528. は大学生レベルの学生にとって、易しく書きなおされたものが、必ずしも読みやすいとは限らないとしている。
12. Willeam Gaskill, "The Teaching of Intermediate Reading in the ESL Classroom," *Cele-Murcia op. cit.* p.144-154.
  13. Yukio Saegusa, "Japanese College Students' Reading Proficiency in English," 『武蔵野英米文学』 XVI (1983), 99-117. は TOEIC の reading の結果から、平均的な学生の low proficiency の原因を insufficient exposure to English としている。
  14. David Harris P., *Teshing English as a Second Langnage* (New York: McGraw-Hill Book Co., 1969), p.59.
  15. Herbert D. Simons, "Reading Comprehension: The Need for a New Perspective," *Reading Research Quarterly*, VI,3 (1971), 338-363.
  16. 羽島博愛, "英語の学力とは何か," 中島文雄 ed 『新英語教育論』(大修館, 1976), p.134-149.
  17. バレッテ, R. M., デッシックス, R. S., 大友賢二監訳, 『英語学習到達目標の設定』(玉川大学出版部, 1980), p.56-57.
  18. 塩沢利雄, "高校卒業段階で期待すべき読む力," 『英語教育』, XXVII, 7 (9月増刊号, 1978), 36-38.
  19. 安藤昭一, "大学英語教育の目標と内容," 中島 *op. cit.*, P.248-266. 注18) と19) の目標は中学校の指導要領改定前のものであるが、本校は英語科である性格上、この数値を変える必要はないと思われる。
  20. 酒井, *ibid.* は一橋大学において、筆者と同様に多量の英語への exposure が読解力をつけるとの考えにもとづき、クラス・ワークとして、一年間20冊を読ませることを目標にした授業を展開している。筆者の立場は extensive reading のみでは不十分で、intensive reading の授業と組合わせた形での多読授業を試みている。酒井の実践では、クラス全体が同一の simplified edition から読み始め、読解のチェックはテスト形式で初年度は出発しているが、徐々に筆者と同様に、読む資料は自由選択に、チェックは英文要約を書かせる形へと変化している。
  21. 永井智, "効果的速読指導をめざして理論より実践へ," 『英語教育』, XXXII, 4

(開隆堂) 10-14, quoted by 松村, *op.cit.*, p.125-16.

22. 文学作品を読解力をつける教材として用いることについては、従来いくつかの難点があげられてきたが、最近またその見直しもなされている。特に、Sandra McKay, "Literature in the ESL Classroom," *TESOL Quarterly*, XVI4 (December, 1982), 529-536. は説得力がある。McKay は "literature is ideal for developing an awareness of language use," と述べている。また "what is most important to a reader in aesthetic reading is the enjoyment attained by interacting with the text. Usage comes in to play only when it impedes or highlights that experience". の論点は自由読書プロジェクトでの学生のコメントにその妥当性が証明されている様に思われる。
23. 石本, *loc.cit.*
24. 伊藤幸次 et. al. 『外国語教育に関する学生の実態調査報告』(独協大学外国語教育研究所, 1984)

### 資料1 読書記録提出用紙見本

Record of Personal Reading			Summary and Comments
No.		Name	
Title			
Author		c. date	
Publisher		Page	
Date	Time	Pages	

## 資料2 アンケート用紙見本

### 講読自由読書アンケート

このクラスでは、一ヶ月に一冊、自分で選んだ本を読み summary と comment を書き続けてきました。このプロジェクトが、あなたの英文を読む力を付けるのに効果があったかどうかを、自己評価してください。正直な意見が、今後の授業を進めるうえに参考になります。あなたの意見に一番近いものに丸を付けてください。無記名です。

- A 英文を読む事に抵抗を感じ無くなりましたか？  
1 はい      2 いいえ      3 どちらともいえない      \_\_\_\_\_
- B 読書スピードが増しましたか？  
1 はい      2 いいえ      3 どちらともいえない      \_\_\_\_\_
- C 単語数が増しましたか？  
1 はい      2 いいえ      3 どちらともいえない      \_\_\_\_\_
- D 英語の物語を読むのが好きになりましたか？  
1 はい      2 いいえ      3 どちらともいえない      \_\_\_\_\_
- E これからも授業で強制されなくとも自分から読み続けようと思っていますか？  
1 はい      2 いいえ      3 どちらともいえない      \_\_\_\_\_
- F 一ヶ月に一冊読むことをどう思いますか？  
1 丁度よい      2 多すぎる      3 少なすぎる      \_\_\_\_\_
- G 時間とページの記録をすることをどう思いましたか？  
1 無意味 止めたほうがよい      2 面倒だが必要と思う  
3 励みになった      4 効果的である
- H comment と summary を英語で書くことをどう思いますか？  
1 無意味だ      2 負担になるから読むのもいやになり逆効果だ  
3 書くために真面目に読むから良い      4 まとめたり考える力がついた
- I 自由に本を選ぶことをどう思いますか？  
1 良い      2 困った      3 もうすこしガイドがほしい
- J 英語の力をつけるのに役立ちましたか？  
1 はい      2 いいえ      3 わからない
- K このプロジェクトを続行したら良いと思いますか？  
1 はい      2 いいえ      3 条件つきで      \_\_\_\_\_
- L 本はどのように選びましたか？

- 1 なるべく短く易しそうなものを選んだ
- 2 難しそうでも面白そうなものを選んだ
- 3 時により1と2をまぜた

M 本はどのように選びましたか？

- 1 book talk を聞き面白そうだったから
- 2 友達から勧められて
- 3 先生から勧められて
- 4 ベストセラーだから
- 5 以前に日本語で読んでいたから
- 6 テレビや映画で放映されていたから
- 7 好きな作家の作品だから
- 8 書棚で見て面白そうだったから
- 9 そのほか \_\_\_\_\_

N 自由に感想をどうぞ

資料3 自由読書アンケート集計表

解答者数 1年生 31名 2年生 28名

		実数			%		
		1年	2年	全体	1年	2年	全体
A 英文を読むことに抵抗を感じなくなったか	はい	10	16	26	32	57	44
	どちらともいえない	10	9	19	32	32	32
	いいえ	11	3	14	35	11	24
B 読書スピードが増したか	はい	13	19	32	41	68	54
	どちらともいえない	14	8	22	45	29	37
	いいえ	5	1	6	16	6	10
C 単語数が増したか	はい	13	16	29	42	57	49
	どちらともいえない	10	9	19	26	14	20
	いいえ	8	4	12	26	14	20
D 英語の物語を読むのが好きになったか	はい	21	19	40	68	68	68
	どちらともいえない	10	6	16	32	21	27
	いいえ	1	3	4	3	11	7
E これからも自分から読み続けるか	はい	24	20	44	77	71	75
	どちらともいえない	6	6	12	19	21	20
	いいえ	0	2	2	0	7	3
F (分量)1カ月に1冊をどう思うか	よい	25	16	41	81	57	69
	多すぎる	6	11	17	19	39	29
	少なすぎる	0	1	1	0	4	2
G (記録形式)時間と頁の記録をすることをどう思うか	効果的	6	8	14	19	29	24
	励みとなった	21	16	37	68	57	63
	面倒が必要	1	2	3	3	7	5
	無意味	2	2	4	6	7	7
H コメントとサマリーの記録をどう思うか	力がついた	18	20	38	58	71	62
	役立った	9	8	17	29	29	29
	負担多く逆効果	5	3	8	16	7	14
	無意味	0	0	0	0	0	0
I 自由に本を選ぶのはどうか	よい	15	20	35	48	71	59
	ガイドが必要	15	8	23	48	29	39
	困った	1	1	2	3	4	3
J 英語力がついたか	はい	20	21	41	65	75	69
	わからない	11	6	17	35	21	29
	いいえ	0	0	0	0	0	0
K プロジェクトを続けるべきか	はい	29	24	53	94	86	90
	条件つきで	1	2	3	3	7	5
	いいえ	1	2	3	3	7	5
L 本の選び方	易しいもの	4	3	7	13	11	12
	面白そうなもの	4	3	7	13	11	12
	時により	23	21	44	74	75	75
M 本の選び方	book talkを聞き	4	1	5	13	4	8
	友だちからすすめられて	5	4	9	16	14	15
	先生からすすめられて	6	6	12	19	21	20
	ベストセラーだから	1	1	2	3	4	3
	日本語で知っていた	6	8	14	19	29	24
	テレビ映画化	4	11	15	13	39	25
	作家が好きだから	7	1	8	23	4	14
	書棚で見て	27	25	52	87	89	88